＜大分県玖珠郡九重町＞

【統合による魅力ある学校づくりの取組モデル】
○コミュニティ・スクールを活用した魅力ある学校づくりに取り組んだ例

１．市町村の概要

◆人　口：9,424 人（令和元年５月現在）

◆小学校：６校，児童数 422 人　　◆中学校：１校，生徒数 193 人

※学校数，児童生徒数は令和元年５月１日現在

◆市町村全体の学校の 統合・存続の状況

平成21年に「第一次学校再編整備計画」を策定し，中学校は４校を２校に統合し，小学校は６校を維持するとした。平成24年に１校に統合を望む議会陳情書が出され，中学校の１校統合が決定した。教育委員会は，「第２次学校再編整備計画」を策定し，中学校は，町内１校，小学校は６校を維持するとした。令和元年には，「第二次学校再編整備計画に係る小学校統合計画（改定）」を策定し，小学校は６校とすることに決定した。

２．研究タイトルと研究課題

◆研究タイトル

１町１中学における地域との連携の在り方と効果的なコミュニティ・スクールの導入について

◆研究課題

○１町１中学校において地域との効果的な連携はどうあるべきか。

○小中学校が連携して取り組む「ここのえ学園」推進におけるコミュニティ・スクールはどうあるべきか。

３．調査研究対象校の状況

◆調査研究対象校

九重町立ここのえ緑陽中学校（７学級，193 人）
九重町立東飯田小学校（６学級，120 人）
九重町立野上小学校　（６学級，113 人）
九重町立野矢小学校　（４学級，　25 人）
九重町立飯田小学校　（５学級，　55 人）
九重町立淮園小学校　（４学級，　32 人）
九重町立南山田小学校（６学級，　77 人）

◆調査研究対象校を統合することとした背景・理由

児童・生徒数の減少が進み小規模が顕著になったので，よりよい教育条件，教育環境を整備するため，小・中学校の適正規模，適正配置について検討した結果，統合に至った。

◆統合に至るまでの過程

平成17年７月　九重町学校再編検討委員会設置
平成19年９月　学校再編整備計画（素案）公表
平成20年４月　町民説明会・アンケートの実施
平成21年６月　第１次学校再編整備計画策定
平成24年８月　飯田中学校の統合決定
平成24年８月　第２次学校再編整備計画策定
平成25年４月　ここのえ緑陽中学校開校

◆統合による学校の教育環境の変化の状況

・クラス替えができることや６小学校から集合することで，人間関係が多様化。
・免許外教科の解消，部活動の選択幅の拡大，施設設備が充実。
・生徒のほぼ全員がバス通学になり，地域との関わりが減少。

◆調査研究対象校の位置

旧４地区にあった中学校を１校に統合した。小学校は６校を維持。

◆対象校の児童生徒数の推移

	H21	H25	R1
東飯田中学校	84	223	193
野上中学校	71	統合	
飯田中学校	80	初年度	
南山田中学校	91		
統合前生徒計	326		
6 小学校合計	476	418	422

４．本調査研究において取り組んだ内容

◆ここのえ緑陽中学校運営協議会を活用した地域連携の取組

統合前は，４地区に中学校がありそれぞれ地域連携を行っていた。しかし，統合と同時に「地域＝町全体」となり学校から主体的な連携ができにくい。また，地域の意見として、スクールバスによる通学となったことで，「地域に中学生の姿が見えない」，「地域行事への中学生の参加が少なくなった」という声が多くなった。

そこで，平成28年度より，学校運営協議会を設置し，「まちづくりに貢献する」というテーマのもと次のような活動に取り組んでいる。

①ふるさと大賞俳句大会

②各地域イベントへの参画

③地域美化活動の実施

④防災士会との連携

◆ここのえ学園の取組と小学校運営協議会の設置

中学校が１校になったということで，予想される課題として小学校の保護者を中心に中１ギャップやいじめ・不登校の問題が出されていた。そこで小・中の連携，小・小の連携，幼小の連携，学校と地域との連携を計画的に推進するようにした。その計画が「ここのえ学園基本計画」である。主な取り組みとして，中学校で全小学校６年生や５年生が集まって学習をする「集合学習」，就学する小学校に園児が出向いて交流をする「つながり学習」，九重町の地域の自然や産業・文化，町づくりについて系統的に学習をする「ここのえ学」などに取り組んでいる。授業での外部講師の依頼や職場体験の事業所一覧の作成は公民館と連携し行っている。また，ここのえ学園の取組を中心に据え，６小学校が連携を深めるために令和元年度に小学校運営協議会を６小学校合同で設置した。地域連携の役割を担うために運営協議会委員には公民館主事を委嘱した。２回の熟議を通して令和２年度の活動のテーマを「防災」とし，今後は各学校で地域と協働しながら防災学習に取り組むことと、公民館を橋渡し役として小中・こども園・各地区のまちづくり協議会が連携して，避難訓練などの実施に向けて取組を始めるように計画している。

５．研究の成果と今後の取組

九重町の中学校統合については，新設校が開校するまでに約10年を要した。統合に際しては，多くの課題が予想されたが，コミュニティ・スクールの活用や「ここのえ学園」の取組を通して，第一次学校再編計画を提示した時点で，住民や保護者から出された課題が払拭されると同時に，学校が町づくりに果たす役割を実感し始めている。

今後は，小学校運営協議会と中学校運営協議会を統合し「ここのえ学園運営協議会」を設置する予定である。また，「ここのえ学園基本計画」の中の「ここのえ学」の充実に取り組むことで，「町づくりは人づくり」という九重町の教育理念の下，「町づくりと教育の連携ビジョン」を推進していく予定である。

６．学校の統合に課題を抱える自治体へのメッセージ

・学校統合については多くの課題があるが，逆に考えればこれまでのシステムを見直すチャンスである。その視点として大切なのは，その町の規模や環境にあったシステムにしていくことである。

・統合中学校の課題解決のために大きな役割を果たしているのが，コミュニティ・スクール制度である。運営協議会委員の方々も学校負担を増やさない，継続して取り組めることに取り組むという姿勢で学校と地域の協働を推進してくれている。課題を明確にし，今ある制度を上手に活用することが大切である。